

# 生活指導について

秋田好枝

## ◎生活指導のもつとめるところ

幼稚園教育の目的は、幼児にふさわしい環境を用意して、そこで幼児を生活させ、望ましい方向に、心身の発達がよりよく促進されるように指導することにある、と教育要領の第一章の中に書かれてあります。が、この中の「生活をさせ」には、豊富な生活経験をさせるための教育計画と、よりよい生活指導がなされなければ、その目的の達成は出来得ないと思います。

ふさわしい環境とは、幼児に適切（使用が安易に出来る）な施設、設備と、幼児数に適当な数ということだと考えます。一つの遊具にも、一つの施設にも、常に、幼児の満足を与えることが出来ているだろうか、幼児数に比例してこれでよいのだろうか、

と幼児の状態を眺めながらたびたび考えることですが、例をあげてみると、水道施設で、数が幼児数に比例してたいへん少ない場合「手を洗いましょう」と言えば、長蛇の列で、時間はかかる、待っている間に喧嘩ははじまる、という状況です。数が幼児数に比例して多ければ、たやすく使用出来るが、人にゆずるとか、順番を待つという指導は出来ない。これら施設、設備についてこのような例は、園の生活では数えきれないと思います。

適量ということをも、まず、幼児の生活の実態から考慮し、一つひとつの施設、設備に対して、この遊具では順番を待つて使うとか、この施設は協力して……とか、のよいうな、生活指導計画をたてた上で、適切な環境を作っていかなければならないと思

ます。

私は、あちらこちらの立派な幼稚園を参観させていただく機会が多く、ああいい施設だと喜んで見せていただきますが、さて自分の園にはこの施設はどうだろう、と考えさせられる場合がたびたびあります。園児数の相違、園舎の構造、広さ、地域的な差などを考えねばならないと思います。

次に私は、生活指導の基本は、社会生活への適応と、自主、独立の精神を養う（人に迷惑をかけない、自分のことは自分で自立の習慣）ということにあると思っています。私も子ども教師は、幼児の特性を知り、一人ひとりの発達状態を把握して、適切な指導をしなければならぬと考えます。

さてその指導にあたって、未分化な幼児に対してどのようにすればよいかは、具体的に、その場その場における指導でなければなりません。朝の自由遊びの出来事を、帰宅準備をして、今日、誰かさんがしたことは、と話すより、その自由遊びのその場での指導の方が、幼児に理解され、善悪の判断もつくと思います。

また教師は、園でのきまりなどについて、ある幼児は見逃し許す、ある幼児は強制する、というのでなく、すべての幼児に対して、公平に指導しなければなりません。ある時は許し、ある時は強く、というのでなく、一つのきまりの指導は、あくまでも貫く意志を、教師はもたなければならぬと思います。幼児にくりかえしくりかえし反復させ、それが習慣になるまでに指導してゆかねばならないと思います。

いよいよ、小・中学校において、道徳教育が実施されることになりましたが、幼稚園における道徳教育は、どのようにすればよいかと考えますとき、私は、現在日々おこなっている生活指導により、前にも述べましたように社会生活への適応と、自主、独立の精神を養うこと、これすなわち、道徳教育の芽生えであると思っております。

### ◎私の園の生活指導

私は、幼稚園教育はすべて生活指導である、と言っても過言ではないと思います。

私の園では六領域にわたって、生活指導の目標を立て指導していますが、次にそ

の中から二、三の領域について具体例を挙げてみましょう。

#### 一、健康について

- ◎きまりよい生活
- ◎自分のことは自分でする
- ◎運動具を正しく使う
- ◎交通規則を守る
- ◎戸外で元気に遊ぶ
- ◎便所をじょうずに使う
- ◎清潔にする

#### (具体例)

便所をじょうずに使うことについて

入園第二日から部屋に入る前、教師が便所に全員を連れて行き、便所下駄にはきかえさせる。正しく便所をする場所を教え、便所以外の場所にしないこと、こぼすと汚ないことを知らせる。下駄の履替え、手洗い、ハンカチの使いかたをいちいち指導する。履替えた下駄の乱雑をなくするために、エナメルで、下駄の家を描いておき、下駄の家に、きちんと、揃えて入れるように指導しておく。

二ヶ月ばかり、毎日、その状態を見に行

き、指導に当たっている。

#### 二、社会について

- ◎自分のものは自分で始末する
- ◎友だちと仲よく遊ぶ
- ◎きまりを守る
- ◎遊具の片付けをする
- ◎人に迷惑をかけない
- ◎友だちに協力する
- ◎物を大切に使う
- ◎自分の仕事に責任をもつ
- ◎自分のことは自分でする
- ◎友だちが困っているときは手伝ってあげる

#### (具体例)

自分のことは自分ですることについて

部屋に入った場合、幼児の固定した場をきめていないので、自分の坐る場所に腰掛がない時、教師はすぐ手を出さず、自分で腰掛を探すように導き、自分で持つて行くようにさせて、幼児に出来ることは、多少時間がかかってもなるべくさせるようにつとめている。

三、絵画製作について

◎自分のものは自分で始末する

◎途中でやめない、終りまでする

◎友だちに協力する

◎道具の使用のきまりを守る

◎跡片付けをきれいにする

### (具体例)

自分のものは自分で始末するについて

道具箱を出して使った時、お仕事がすむと、そのまま遊びに出る幼児が多い。

入園当初から、そのまま出て遊んでいる幼児を、部屋まで呼んできて、きちんと始末するようにさせている。

以上、大まかな目標と、二、三の具体例をかかげましたが、全領域にわたって、きまりを守る、自分のものは自分で始末する、人に迷惑をかけない、友だちに協力をするということでありまして、いわゆる社会生活と自立の面だと思います。また具体例にかかげましたように、教師が幼児に対して、あまりにも親切すぎないように、無理にならないときは、幼児に実践させる配慮と、教師が、幼児とともにきめたきまりを実践できなければ、とうてい、指導は出来ない

と思います。

### ◎家庭の協力

次に、幼児の生活指導は、幼稚園で一生懸命指導しただけでは、幼児の身につくまでの指導は出来ないと思います。これには、どうしても家庭の協力なしでは、どうすることも出来ないと思います。私は、入園前保護者会において、幼稚園教育の概要について話し、特に社会性と自立について語り、教師の態度について、自分で出来ることは自分でさせるなどを話して、家庭においても、衣服、脱ぎ着、洗顔、手洗いなどに協力してもらうように依頼して、実践してもらおう。入園後、毎月の幼稚園だよりのお母様がたへの欄に、くわしく指導内容を記載しておく。また参観日には、生活状態をよく見ていただき、保育後の懇談会において、当日の生活について話し合い、よりよい性格の幼児になるよう、幼稚園、家庭が一体となるよう、努力しております。一父兄が、幼稚園において、日々交替して帰る、家族の中でこれを実施しているとた

いへん喜ばれたこともございました。

### ◎むすび

私の園は、かつて本誌に「狭い幼稚園」と題して、記載いたしました。が、多数数の幼児を狭い園で生活させております。

生活指導の面については、施設が少なく、幼児にとっては、無理なことが多くて申訳ないと、これを書きながらも心から幼児におわびがしたいと思うようでございます。

運動具も、園庭が狭いために、幼児数に適切な設備が出来ないので、目下遊び道具の数をふやし、幼児が没頭して遊ぶことの出る環境を作ること一心であります。

相互の生活がよく出来るために、喧嘩は少なく友だちと仲良くして、悪条件の中でも幼児たちは楽しく遊んでおります。

私はまず第一に、幼児の社会性(よりよい対人関係)を培うことに懸命の努力をしております。また家庭環境が非常によく、家庭の協力がたいへんよいので、喜んでやる次第であります。皆様の御指導、御批判を賜りたいと存じます。

(岡山市立伊島幼稚園)